



俳句

稲井爽秋 選

花冷や妻に似し背にふり返る
 雨上り紫陽花の彩鮮やかに
 夏の客まづ名水でもてなせり
 梅雨明けの空に追ふ雲逃げる雲
 大南風還らぬ戦友の叫ぶごと
 境内を上る石段蟬時雨
 夕点前浴衣の帯をゆるく締め
 子の年忌終へて旅終ふ花木槿

川柳

伊藤凡々 選

身を退いた会社の株が気に掛かる
 暑さにはエコで涼しい花氷
 先立った妹惚ぶ丸い月
 独り居の庭の胡瓜が生り過ぎる
 節電に早風呂早寝朝寝坊
 トッピングに工夫を凝らす冷や奴
 名医でも法を犯せば身の破滅
 家計簿のピンチ漬物フルコース

高塚靖樹
 近藤忠夫
 永井 幸
 池田千賀子
 榊原志津子
 今井利江
 西原おさむ
 林マキ子

短歌

藤田虎雄 選

高縄の山路降りて遥か見る瀬戸夕風ぎの橋脚
 白し 浅瀬に半夏生の群生は夏に雪かと思紛うほど
 車椅子の日暮れの小道しづかなり空見上ぐれ
 ば零れ星一つ 十五夜の月に誘われ散歩道 盆が近いと蛙が
 讃岐路で団扇を求め子に送る節電の夏の一助
 朝夕に数々の葉いただきて八十七歳我れは生
 きいる 今一度話したかりし友なるに小雨の中を柩の
 離る 二十歳で耳も聞こえぬ犬なれど五時の散歩は
 ちやんと待っている

俳句・川柳・短歌 作品募集

作品(俳句・川柳・短歌)の別を書き、漢字にはふりがなを振ってください。住所・氏名・電話番号を明記し、毎月1日までに担当課へ郵送・持参してください。

〒793-8601 明屋敷164
 市庁舎本館 総務課 広報情報係
 TEL 0897-52-1204 (直通)

Your Friendly Neighbors

世界のゆかいな仲間たち

No.77 文学と大江と私の将来



▲国際交流員
ケイレブ・デマレーさん

「JETプログラムの国際交流員として、愛媛県西条市に派遣されたのは間違いなく運命だ。」

そう信じてきた私には理由があった。国際交流員の面接を受けた時、将来に関する希望や夢を当然聞かれた。常に文学と読書で頭がいっぱいだった私は、すぐに答えられた。「日本文学を勉強してきた者として、国際交流員の経験を将来に活かし、いずれ日本文学の教授になりたいです」と自信満々で言った。以前、千葉県に留学し

ていた頃に愛媛県生まれの大江健三郎に手紙を書き、それを大江の自宅に届けてもらったことを面接で言えたのが、愛媛県に派遣されたことに深くつながっていると今も思わずにはいられない。

面接に合格し、国際交流員としての行き先が愛媛県であることを知ってから、ワクワクの日々が始まった。大江が生まれた大瀬村を何度も彼の作品を読みながら想像したことがあり、大江が学校を抜け出して一人で森の大きな木の下で独学をしていたように、私も自国を抜け出して自分を探しに愛媛に行くのだ、と信じていた。西条市に引っ越すのに大量の荷物を持ってきたが、大江の全作品第一期も持ってきたのだ。今まで愛読してきた大江をさらに深く読む勢いで愛媛県に来た。

しかしながら、西条市に住んで4年が経ち、大江を一切読んでいない。現在の内子町にある大瀬村の大江の生家を訪ねて行ってもない。以前、毎日大江のことで夢だった私は、もう存在しないのか。逆に、大江が生まれた愛媛県に来てはならなかったのか。西条市が愛しの第二の故郷になったので、決してそう思わない。が、愛読してきた、一番深く自分の考えに知的な影響を与え、生きる意味をしみじみ感じさせられた大江健三郎をなぜ読まなくなったのか。

あと1年だけ西条市に住むのだが、1年間で日本文学に対する熱意を取り戻し、再び大江の作品に夢中になり大学院生として日本文学を研究する心構えをしたいと熟考している。

特集記事 支所だより S I C S 情報最前線 お知らせ 催し 講座・教室 募集 施設ガイド 人権・同和教育他 ふるさと産品 カメラスポット 各種相談 保健センター 当番病院 他